

中小企業景況情報

本情報は、県内12商工会で実施した中小企業景況調査の集計結果(180企業)をまとめた

小売業

発行・長崎県商工会連合会
長崎市桜町4-1
長崎商工会館8階
問い合わせ先 TEL 095(824)5413

〔主要景況項目の動向〕

期 主要項目	2019年 7月～9月	10月～12月	2020年 1月～3月	4月～6月	7月～9月	10月～12月 (見通し)
売上額						
採算						
資金繰り						
業況の動向						

晴 D・I 50.1～100

晴時々曇 D・I 20.1～50

曇 D・I 20～△20

曇時々雨 D・I △20.1～△50

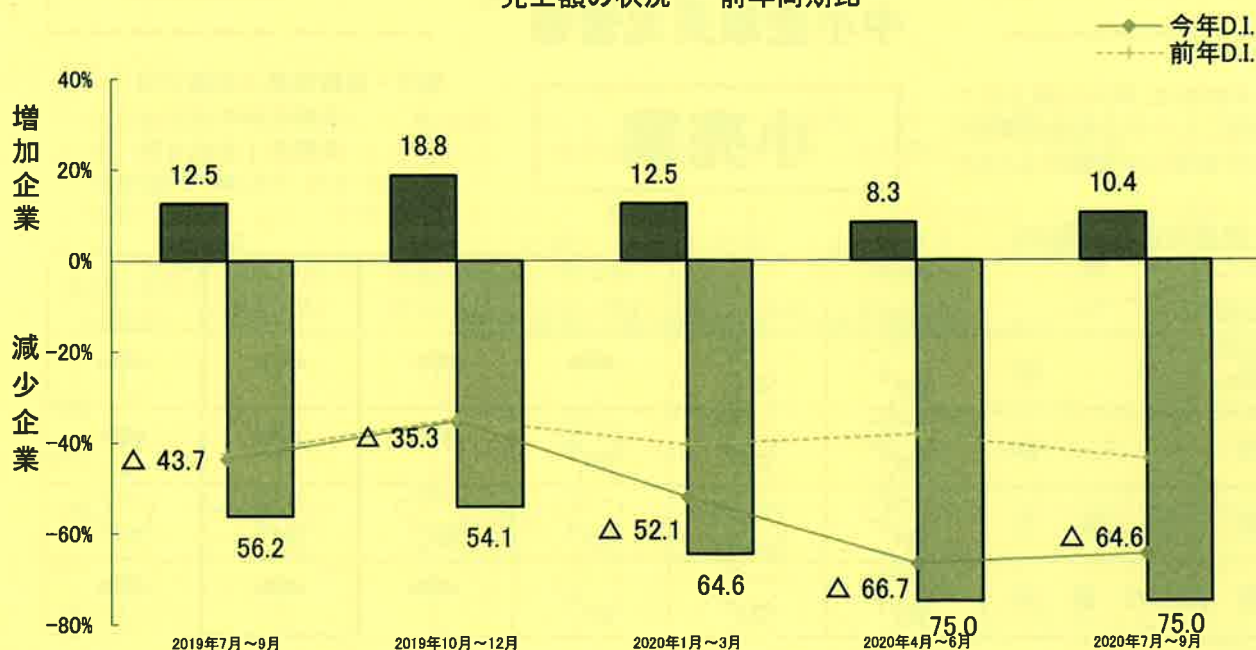
雨 D・I △50.1～△100

〔調査対象企業のコメント〕

製造業	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルスによる影響もあったが、少しずつではあるが、注文が出だした。このまま収束するのを待つしかないと思う。 新型コロナウイルスの影響が御中元あたりから回復してきた感じはするが、秋冬になっての流行や社会がどうなるのかわからないため、不安である。 新型コロナウイルスの影響により、景気低迷と共に消費者の購買意欲の減少で商品が動かない。しかし、経費ばかりが年々増加していく悪循環を改善したいが、その方法がわからない。 新型コロナウイルスの影響が一番であり、前年比6月で34%、7月で62%、8月で90%と少しずつ戻ってきているが、見通しがつかない現状であり、厳しい状況である。 新型コロナウイルスの影響を受け、製造していた商品が売れず、売上が低下した。また、イベント等も中止になったため、在庫が多く残ってしまった。
建設業	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルスの影響がどのくらい続くのか予測できない状況が不安である。 今期は新型コロナウイルス禍の影響で保留になる工事や延期の工事がなく、工事量が減ってきている。来年に向けて不透明な部分が多く、全業種同じような感じなのかと思う。先行きの不安が大きくなっている。 新型コロナウイルスの収束が見通せない中、感染の不安があり、仕事の効率が上がらない。 新型コロナウイルスが心配である。また、オリンピックができるか不透明のため、建設の中止が出てきており、業者間での価格競争が心配だ。 4～5月に中断していた工事が再開したため、今期においては、売上額もやや上がったものの、新規工事の依頼は停滞しており、来期以降不安である。
小売業	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルスで先の見通しがたたない。需要に応じての対応だが、先もの取引等の仕入れで過剰な在庫に注意していかなければならない。 今期は、県の支援事業などを利用したことで、資金繰りの方はカバーできたが、やはり需要の停滞、そして業況の悪化は感じている。 新型コロナウイルスの問題を抜きにして考えた場合、人材不足が一番の悩みであるが、人材確保より在庫を減らし、商品の回転率を上げる方法をとっていくことも1つの手段として考え、今後の行動をする。 今年の3、4、5月から比較すると売上の的には少しずつ回復してきているように思えるが、今後の世の中の動きがどうなっていくのかをよく見て、経営を変化させていくことが大事だと思う。 生活様式が大きく変化する中で、方向性が定まるまで生活様式を注視し、状況に合わせた対応が必要。今は耐える時期である。
サービス業	<ul style="list-style-type: none"> 国・県・市の宿泊補助キャンペーンによる一時的な売上げの見通しはついたが、この先新型コロナウイルス感染症の影響がいつまで続くか不安である。 毎年活気が感じられる行事が、あれこれと中止され、3密が強化された。地元で新型コロナウイルス患者が発生し、需要の停滞が想像以上である。持続化給付金を頂き、精神的にゆとりはあるが、どうなるか不安である。 新型コロナウイルス感染症の影響を今期は受けず、なんとかいつも通りの経営ができているが、人手不足により、全員の疲労が蓄積し、大変な事態にならないことを願う毎日である。しかし、新しい生活形態へと変化させていかねばと頭がいたい日々だ。 新型コロナウイルス感染症の影響で、宴会という団体客がないのが一番の売上低下の原因。その反面、クーポン券が予想以上に多くて本当に助かった。早くコロナウイルスが収束してほしい。 新型コロナウイルスに伴い、店内での予約はすべてキャンセルが続き、配達のみ予約となっている。売上げがガタ落ちの状況である。この状態が続いたら多分もたないと感じている。お店を開店して40年になるが、初めて経験する現状だ。

①【小売業】売上の動向

売上額の状況 ー前年同期比ー

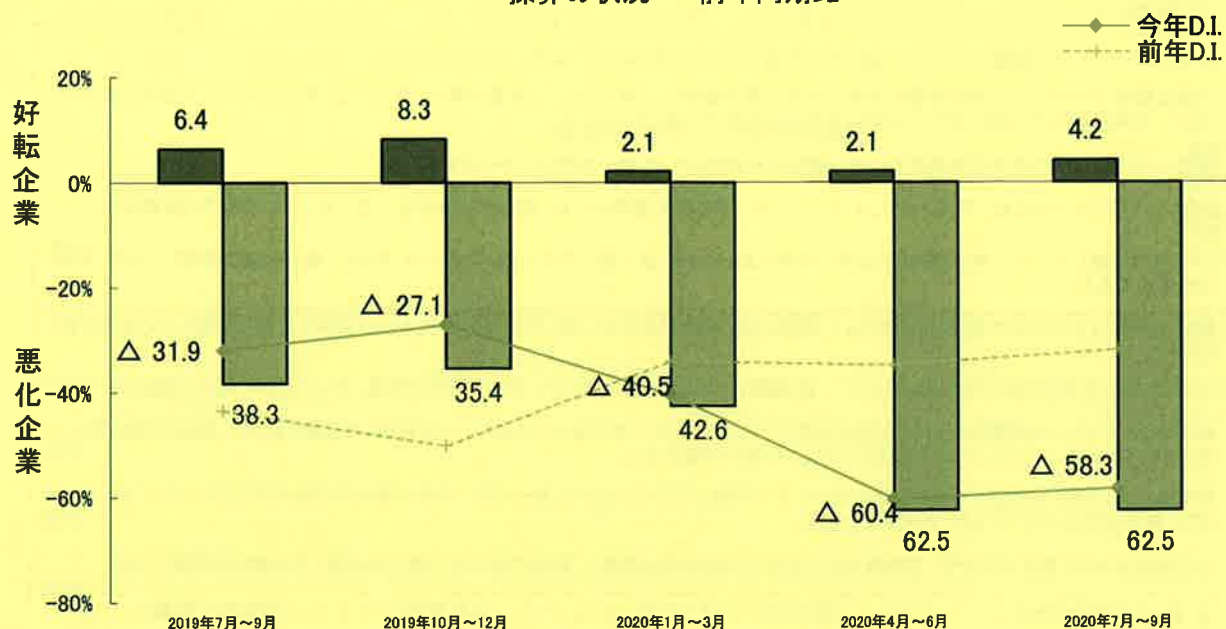


今期、売上が「増加した」と答えた企業は10.4%と、前期の8.3%から2.1ポイント増加した。また、「減少した」と答えた企業は75.0%と、前期の75.0%から不変であった。したがって、今期D・I値は△64.6と、前期の△66.7から2.1ポイント改善した。

「来期の見通し」では、増加すると予測した企業は6.3%、減少すると予測した企業は74.9%で、これにより来期のD・I値は△68.6と、今期の△64.6から4.0ポイントの悪化を予測している。

②【小売業】採算の動向

採算の状況 ー前年同期比ー



今期、採算が「好転した」と答えた企業は4.2%と、前期の2.1%から2.1ポイント増加した。また、「悪化した」と答えた企業は62.5%と、前期の62.5%から不変であった。したがって、今期のD・I値は△58.3と、前期の△60.4から2.1ポイント改善した。

「来期の見通し」では、好転を予測した企業は4.2%、悪化を予測した企業は56.2%で、これにより来期のD・I値は△52.0と、今期の△58.3より6.3ポイントの改善を予測している。

③【小売業】新規設備投資の状況

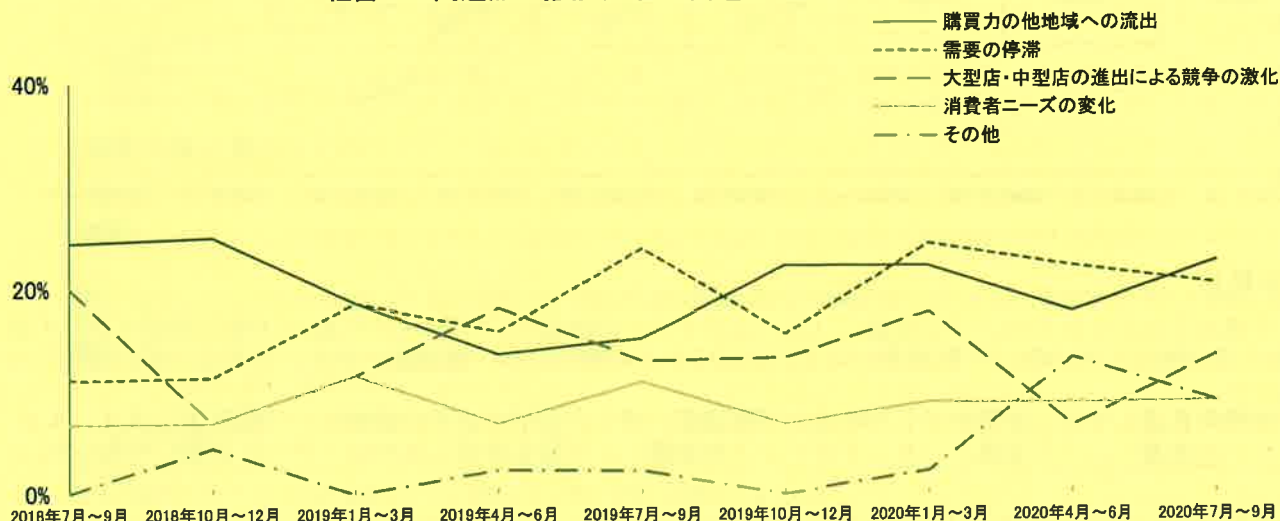
※投資内容は複数回答 (%)

項目 期	実施 して 計 画 る	投資内容								実施 して い 計 画 い
		土 地	店 舗	販 売 設 備	車 両 ・ 運 搬 具	付 帯 施 設	O A 機 器	福 利 厚 生 施 設	そ の 他	
今 期 (2020年4~6月)	16.7	12.5	25.0	25.0	12.5	12.5	37.5	12.5	25.0	83.3
来 期 (2020年7~9月)	6.2	66.7	0.0	33.3	33.3	66.7	33.3	0.0	33.3	93.7

今期設備投資を行った企業は16.7%で、前期設備投資を行った企業(10.9%)を上回った。
来期は6.2%が設備投資を計画している。

④【小売業】経営上の問題点

経営上の問題点の推移(一位の問題点・上位5つ)



今期の経営上の問題点は、第1位は「購買力の他地域への流出」で22.7%、第2位は「需要の停滞」で20.5%、第3位は「大型店・中型店の進出による競争の激化」で13.6%、第4位は「消費者ニーズの変化」「その他」で9.1%であった。購買力の他地域への流出、需要の停滞、大型店・中型店の進出が問題となっていることが窺える。

⑤【小売業】来期の見通し

売上(収入)額			採 算			資 金 繰 り			業 況		
2020年 4~6月期	7~9月期	10~12月期	2020年 4~6月期	7~9月期	10~12月期	2020年 4~6月期	7~9月期	10~12月期	2020年 4~6月期	7~9月期	10~12月期
△ 66.7	△ 64.6	△ 68.6	△ 60.4	△ 58.3	△ 52.0	△ 43.7	△ 30.4	△ 37.0	△ 70.1	△ 53.4	△ 54.3
傾向	↗	↘	傾向	↗	↗	傾向	↗	↘	傾向	↗	↘

(注) ↗ 増加・好転、→ 不変、↘ 減少・悪化を示す。

来期の見通しは、「採算」の項目で改善を示している。しかし、「売上(収入)」「資金繰り」「業況」の3項目で悪化を示している。調査対象企業のコメントでは、需要の停滞や在庫について懸念する声が多く、経営スタイルを変化させる必要があるとの声が多い。

景況概要

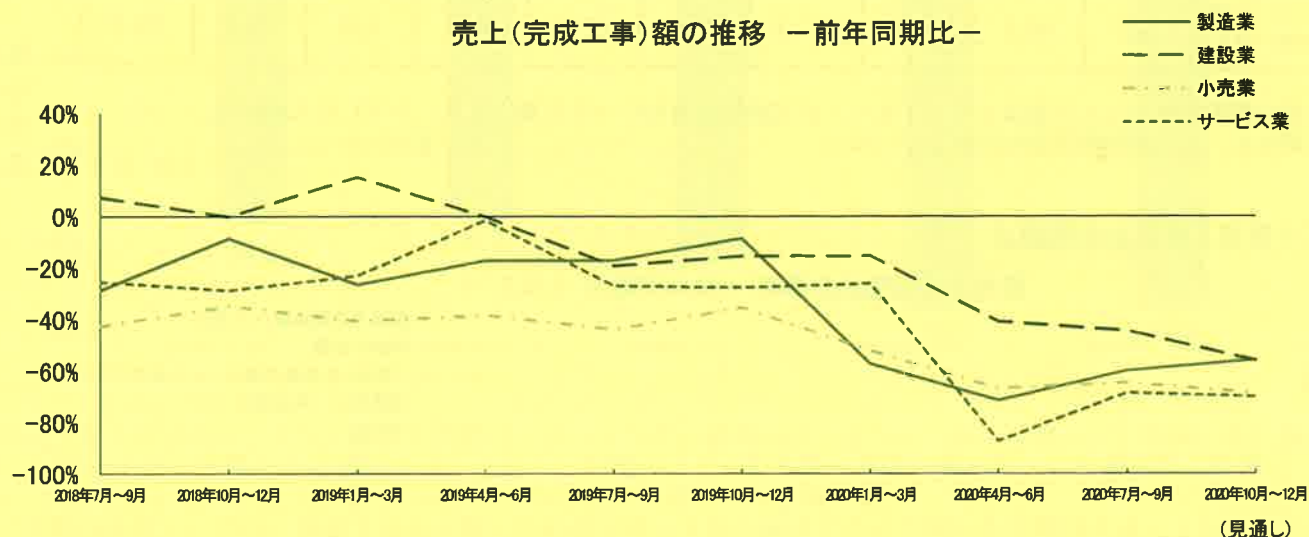
長崎県の全産業

【売上】

今期改善を示したのは、「製造業」（11.6ポイントの改善）「サービス業」（18.7ポイントの改善）であった。悪化を示したのは、「建設業」（3.6ポイントの悪化）、「小売業」（2.1ポイントの悪化）であった。

来期の見通しでは、改善を示したのが、「製造業」（4.1ポイントの改善）であった。悪化を示したのは、「建設業」（11.6ポイントの悪化）、「小売業」（4.0ポイントの悪化）、「サービス業」（1.5ポイントの悪化）であった。

売上(完成工事)額の推移 -前年同期比-

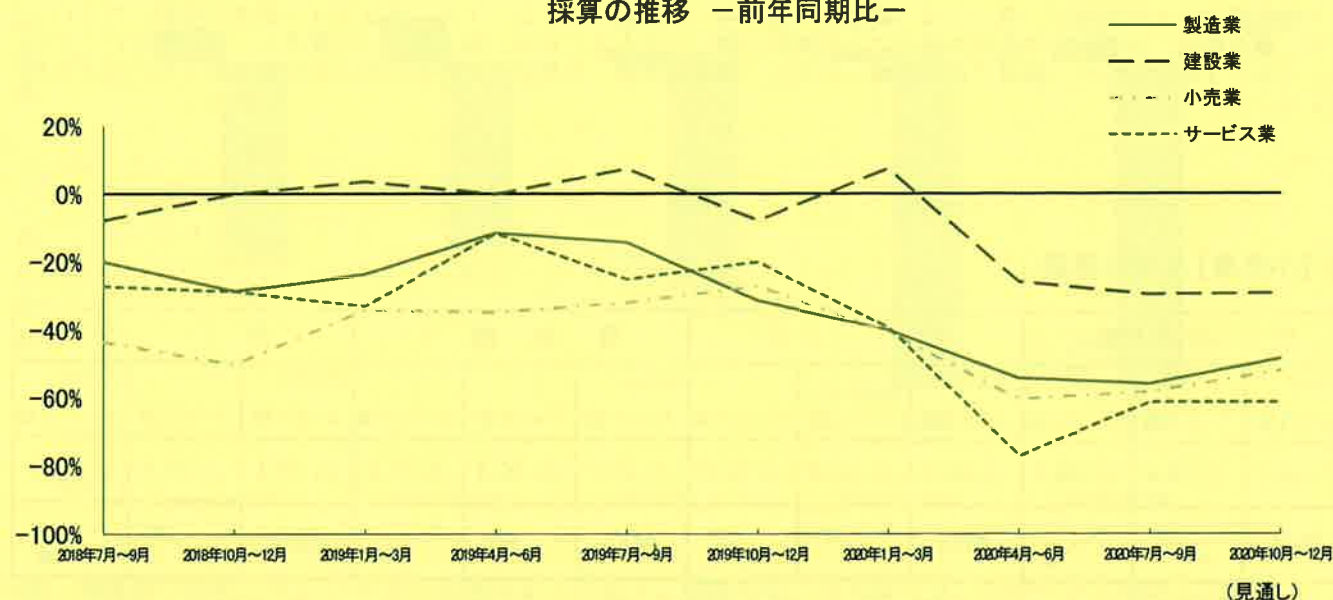


【採算】

今期改善を示したのは、「小売業」（2.1ポイントの改善）、「サービス業」（15.5ポイントの改善）、悪化を示したのは、「製造業」（1.8ポイントの悪化）、「建設業」（3.7ポイントの悪化）であった。

来期の見通しでは、改善を示したのは、「製造業」（7.5ポイントの改善）、「建設業」（0.4ポイントの改善）、「小売業」（6.3ポイントの改善）、不変を示したのは「サービス業」であった。

採算の推移 -前年同期比-



【注】本レポートの中で「D・I」とある記号は、ディフュージョン・インデックス(景気動向指数)の略です。例えば各調査項目について増加(又は上昇、好転、長期化)と答えた企業の割合から、減少(又は低下、悪化、短期化)と答えた企業の割合を差し引いた値を示す表示です。マクロ指標等では表れにくい経営者マインドを敏感につかむ事ができます。